

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第19週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (19週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核4例。3類感染症：報告なし。4類感染症：報告なし。
5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌感染症1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	70歳代	男	肺結核	症状なし
		都城	70歳代	男	肺結核	症状なし
			80歳代	女	無症状病原体保有者	—
		小林	80歳代	男	肺結核	咳
5類	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	都城	70歳代	男	—	腸炎
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		80歳代	女	—	発熱、肺炎、菌血症

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は827人(定点当たり25.6)で、前週比118%と増加した(祝日含む)。前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患はインフルエンザとRSウイルス感染症であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【感染性胃腸炎】

・報告数は340人(9.4)で、前週比109%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(10.1)の約0.9倍であった。日南(24.7)、小林(19.3)保健所からの報告が多く、年齢別では1~4歳が全体の約半数を占めた。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

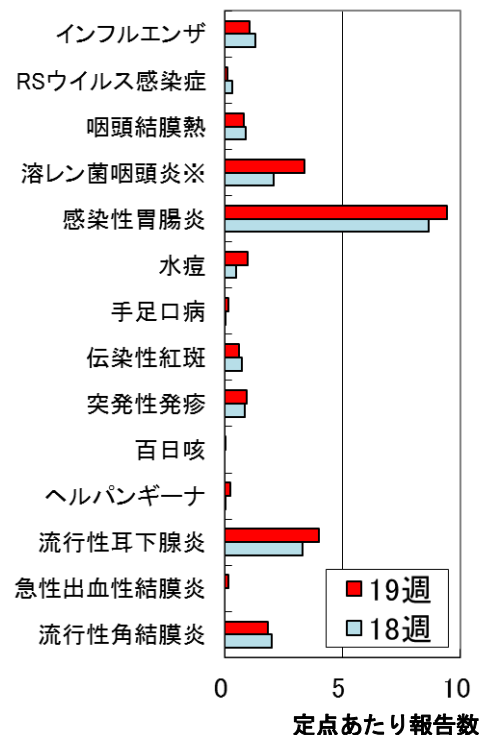
・報告数は121人(3.4)で、前週比161%と大幅に増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.6)の約1.3倍であった。中央(12.0)、日南(7.0)、都城(5.0)保健所からの報告が多く、年齢別では4~7歳が全体の約6割を占めた。

【流行性耳下腺炎】

・報告数は143人(4.0)で、前週比121%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.7)の約5.7倍であった。小林(18.0)、日向(11.5)、延岡(7.3)保健所からの報告が多く、年齢別では3~7歳が全体の約7割を占めた。

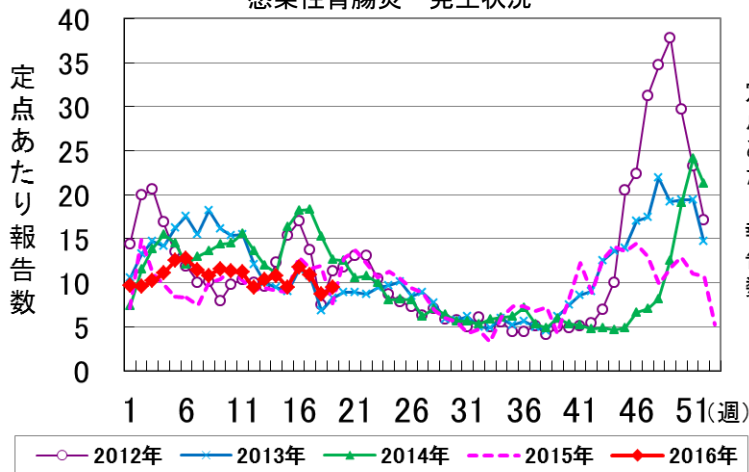
* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

《前週との比較》

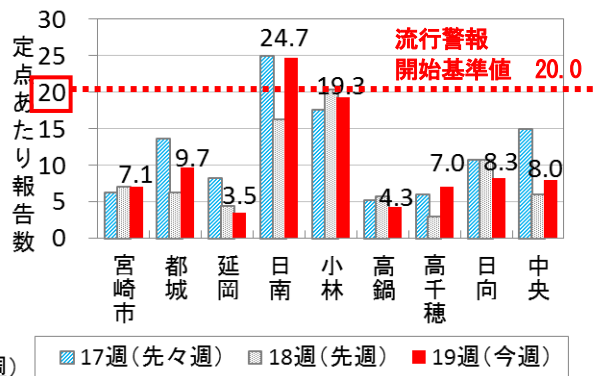


※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

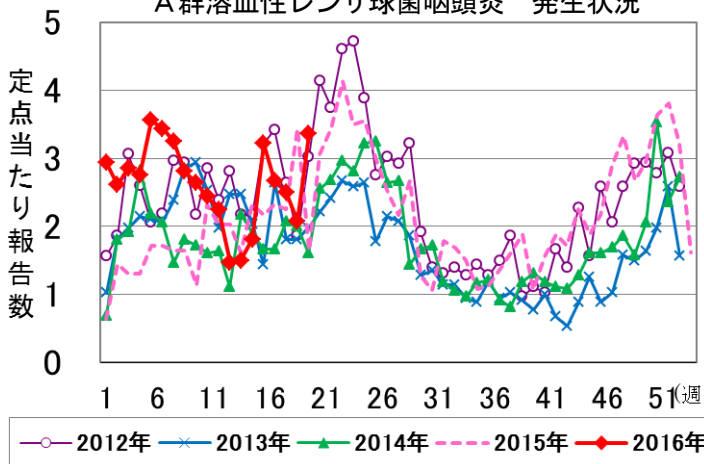
感染性胃腸炎 発生状況



感染性胃腸炎 保健所別推移 (3週分)

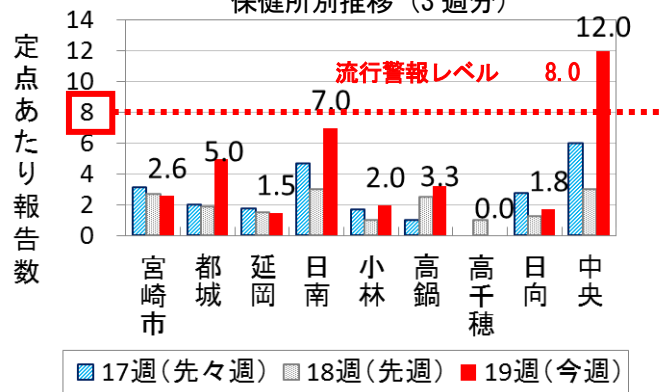


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況

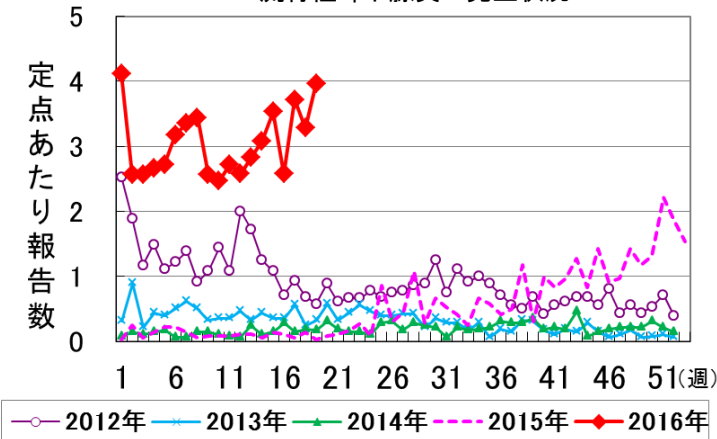


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

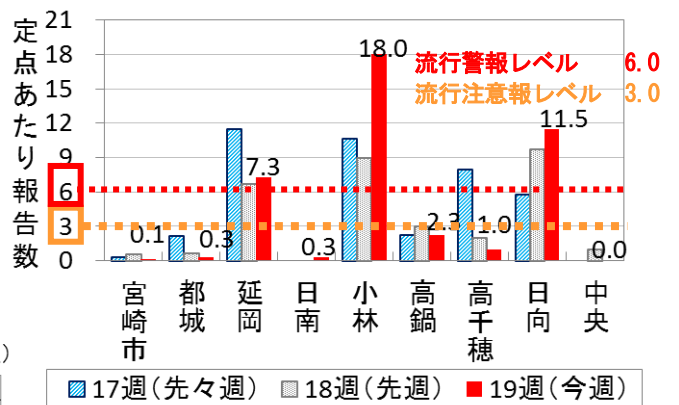
保健所別推移 (3週分)



流行性耳下腺炎 発生状況



流行性耳下腺炎 保健所別推移 (3週分)



★基幹定点からの報告★

- 無菌性髄膜炎：延岡保健所から3例、日南保健所から1例報告があった。0～4歳が2例、5～9歳が1例、10歳代が1例であった。
- マイコプラズマ肺炎：宮崎市、高鍋保健所から3例ずつ報告があった。0～4歳が1例、5～9歳が3例、10歳代が2例であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：宮崎市保健所から3例、延岡保健所から1例報告があった。0～4歳が3例、5～9歳が1例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性耳下腺炎(7.3)
日南	感染性胃腸炎(24.7)
小林	流行性耳下腺炎(18.0)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	流行性耳下腺炎(11.5)
中央	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(12.0)

＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

🇯🇵 全国 2016 年第 18 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 18 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	217 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	20 例	腸チフス	1 例	パラチフス	1 例
	E 型肝炎	4 例	コクシジオイデス症	1 例	つつが虫病	1 例
4類感染症	デング熱	5 例	日本紅斑熱	1 例	マラリア	1 例
	レジオネラ症	11 例				
5類感染症	アメーバ赤痢	5 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	11 例
	急性脳炎	5 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4 例	後天性免疫不全症候群	3 例
	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	36 例	梅毒	24 例	播種性クリプトコックス症	1 例
	破傷風	2 例	風しん	2 例	麻しん	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 74%と大幅に減少した（祝日含む）。前週と比較して増加した主な疾患は水痘であった。減少した主な疾患はインフルエンザと A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 2,407 人(0.76)で前週比 95%とやや減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.42)の約 1.8 倍であった。宮崎県(3.3)、佐賀県(1.9)、山形県(1.7)からの報告が多く、年齢別では 4～5 歳が全体の約 3 割を占めた。

咽頭結膜熱の報告数は 1,277 人(0.41)で前週比 103%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(0.41)の 1.0 倍であった。島根県(1.9)、佐賀県(1.1)、鹿児島県(1.0)、福井県(1.0)からの報告が多く、年齢別では 1 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週（計 15 週）の平均値

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2016年 第19週(5月9日～5月15日)

疾病名		第18週	第19週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	76	61	18	8	2	2	24	1	3	2	1
	定点あたり	1.29	1.03	1.13	0.80	0.29	0.40	4.80	0.17	1.50	0.33	0.50
RSウイルス 感染症	報告数	11	4	2							1	1
	定点あたり	0.31	0.11	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	1.00
咽頭結膜熱	報告数	32	29	5	9	2	7	1	2		2	1
	定点あたり	0.89	0.81	0.50	1.50	0.50	2.33	0.33	0.50	0.00	0.50	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	75	121	26	30	6	21	6	13		7	12
	定点あたり	2.08	3.36	2.60	5.00	1.50	7.00	2.00	3.25	0.00	1.75	12.00
感染性胃腸炎	報告数	312	340	71	58	14	74	58	17	7	33	8
	定点あたり	8.67	9.44	7.10	9.67	3.50	24.67	19.33	4.25	7.00	8.25	8.00
水痘	報告数	17	34	14	3	5	3	1	1		6	1
	定点あたり	0.47	0.94	1.40	0.50	1.25	1.00	0.33	0.25	0.00	1.50	1.00
手足口病	報告数	1	5	1	1					1	1	1
	定点あたり	0.03	0.14	0.10	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.25	1.00
伝染性紅斑	報告数	26	22	8	8	1		3	1			1
	定点あたり	0.72	0.61	0.80	1.33	0.25	0.00	1.00	0.25	0.00	0.00	1.00
突発性発しん	報告数	31	33	10	3	10	1	4	3			2
	定点あたり	0.86	0.92	1.00	0.50	2.50	0.33	1.33	0.75	0.00	0.00	2.00
百日咳	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.03	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	1	8		4	2					2	
	定点あたり	0.03	0.22	0.00	0.67	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	118	143	1	2	29	1	54	9	1	46	
	定点あたり	3.28	3.97	0.10	0.33	7.25	0.33	18.00	2.25	1.00	11.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.17	0.33	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	12	11	10	1							
	定点あたり	2.00	1.83	3.33	0.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数		4			3	1					
	定点あたり	0.00	0.57	0.00	0.00	3.00	1.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	5	6	3					3			
	定点あたり	0.71	0.86	3.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	3	4	3		1						
	定点あたり	0.43	0.57	3.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2016年第1週～19週)

2類感染症	結核	70例(4)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1例				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病	4例
	アメーバ赤痢	9例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2例(1)	急性脳炎	7例
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群	2例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例(1)	侵襲性肺炎球菌感染症	4例	梅毒	4例
	播種性クリプトコックス症	3例	破傷風	1例		

()内は今週届出分、再掲

月報告対象疾患の発生動向 <2016年4月>

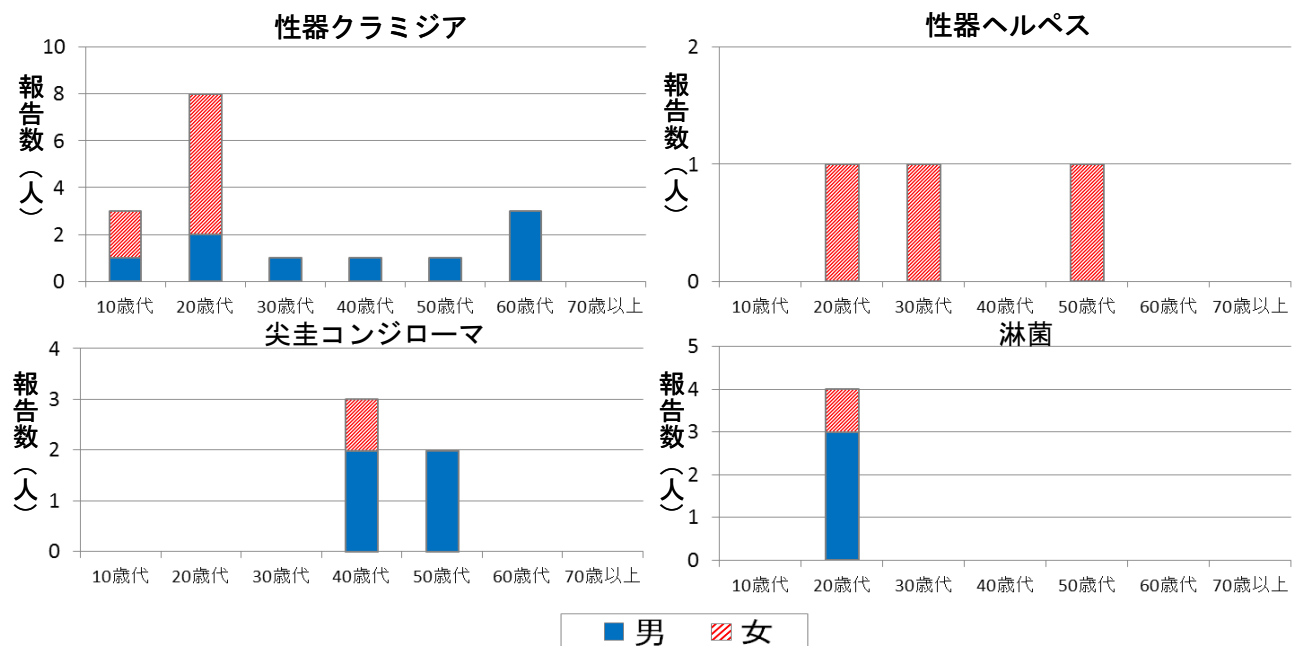
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は29人(2.2)で、前月(2.5)の約0.9倍、昨年4月(2.7)の約0.8倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数17人(1.3)で、前月(1.7)の約0.8倍、昨年4月(1.9)の約0.7倍であった。20歳代が全体の約半数を占めた。(男性9人・女性8人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数3人(0.23)で、前月及び昨年4月(0.38)の約0.6倍であった。(女性3人)
- 尖圭コンジローマ：報告数5人(0.38)で、前月(0.15)の2.5倍、昨年4月(0.08)の約4.8倍であった。(男性4人、女性1人)
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月(0.31)の1.0倍、昨年4月(0.38)の約0.8倍であった。(男性3人・女性1人)



【全国】 定点医療機関総数：983

定点医療機関からの報告総数は3,639人(3.7)で、前月比で94%とやや減少した。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,827人(1.9)で前月比92%、性器ヘルペスウイルス感染症717人(0.73)で前月比96%、尖圭コンジローマ454人(0.46)で前月比100%、淋菌感染症641人(0.65)で前月比97%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は21人(3.0)で前月比84%と減少した。また昨年4月(2.4)の約1.2倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人(2.9)で、前月の約0.9倍、昨年4月(2.4)の約1.2倍であった。70歳以上が全体の約8割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)であった。前月の0.5倍であった。(昨年4月報告なし)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：476

定点医療機関からの報告総数は1,462人(3.1)で、前月比95%とやや減少した。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,276人(2.7)で前月比92%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症175人(0.37)で前月比123%、薬剤耐性緑膿菌感染症11人(0.02)で前月比100%であった。